

施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	4 設備の更新	② 施策番号	6202
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	2 活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 上水道の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
上下水道部	上水道工務課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	水道施設、水道管
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	老朽化した水道施設を更新し水資源の有効利用
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態、今後どのように変化していくと考えられるか)	企業の経営に大きく影響することから、将来のファシリティーマネジメントが非常に重要になることから、国などは事業者へこの取り組みを早くから指導している

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 管延長 計算式:	Km	水道管路の現状把握を行うとともに、漏水箇所を調査し発見された漏水箇所の修理を迅速に行い、これにより漏水に起因する事故を未然に防止する。
② 対応調査件数 計算式:	箇所	独自の漏水調査実施や通報による漏水箇所を早期に把握し、適宜、迅速な対応を行い、効率的に安定した給水をおこなう。
③ 対応箇所数 計算式:	箇所	独自の漏水調査実施や通報による漏水箇所を早期に把握し、適宜、迅速な対応を行い、効率的に安定した給水をおこなう。

指標名	単位		H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
① 管延長	Km	目標値	180	180	180	—	—	令和元年4月1日より水道事業については、大阪広域水道企業団に統合
		実績値	180	180	180	—	—	
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
② 対応調査件数	箇所	目標値	—	—	—	—	—	"
		実績値	579	482	517	—	—	
		達成率						
③ 対応箇所数	箇所	目標値	579	482	517	—	—	"
		実績値	579	482	517	—	—	
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%			

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方向性	
1	水道管路維持管理事業	対応箇所数	箇所	482	517	—	62,264	67,016	—	A	ウ	○
2	水道施設維持管理事業	各施設(設備)の停止	回	0	0	—	28,469	23,178	—	A	ウ	○
3	工事施工管理事業	業者指導及び竣工検査の割合	%	100	100	—	13,202	9,032	—	A	ウ	
4	水道施設整備事業	耐震化率	%	2	1	—	172,079	172,517	—	A	ウ	◎
5												
6												
7												
8												
計	4						276,014	271,743	0			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのよう貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	老朽化した水道管を更新し災害時に強い水道を目指すとともに耐震化についても推進する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2〔2〕の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	独自の漏水調査実施や通報による漏水箇所を早期に把握し、適宜、迅速な対応を行い、効率的に安定した給水をおこなう。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	本施策についての市民団体などと役割分担をすることは非常に少なく、現状は適切に利用者として施策の中身を知っていただくための情報公開が必要と考える。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2〔3〕を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	水道事業に適切な役割を持っていることから適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2〔3〕において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	総合計画の施策(小)簡易水道の統合及び企業団水への切り替えも終了し、今後は管路の耐震化にシフトしていく必要がある。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	B	設備の更新は、将来の水需要を考慮し更新していく必要があり大きな費用がかかることから、社会環境の見極めが困難なことが課題である。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	ファシリティマネジメント実施による現状の整備計画と整合を取る。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	水道事業の広域化に伴う整備計画や水道施設の維持を踏まえ今後の計画の見直しを行う。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	広域化を実施することで、使用水量に見合う整備計画のローリングを行う。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	漏水箇所などの早期発見と設備の計画的な更新により安定給水に努められたい。	